

## 「日本の空でパイロットを育てる」新しい理工系プログラムを開始

法政大学は、1929年に国内の大学として初めて航空部を創設し、1931年には学生による「青年日本号」訪欧飛行を達成した。また、本学理工系の前進は航空工業専門学校であり、航空のルーツを持っている。そして2008年度（平成20年4月）より、新設の理工学部機械工学科において、航空機のパイロット養成を核とした新しいプログラム「航空操縦学専修」を開設する。

### ●大空を飛ぶ夢と、理工学の融合

いま、団塊世代の大量退職という問題に加え、羽田空港の拡張展開や地方空港の開設による国内路線の増大、あるいはアジア諸国の発展に伴う輸送力の増加などにより、パイロット需要が急速に増えており、民間活力によるパイロット養成への期待が高まっている。一方で、自動車メーカーの小型ジェット機業界参入や、旅客機の主要部品需要の増加など、日本の製造業においても航空ビジネスが活況を呈してきている。本専修は、航空・操縦という専門的実学的な切り口から工学を履修するカリキュラムを展開し、パイロット育成という社会的要求に応えるだけでなく、航空機を通じて「ものづくり」へのモチベーションが豊かなエンジニアを生み出すことを目指し、実際に航空機に触れ、飛ぶこともできるエンジニアにもなれるという、夢のある全く新しい理工系プログラムである。

### ●リスクを軽減する多様かつ堅実なプログラム

プロパイロットを養成する教育プログラムは、技能の特殊性に加え、費用や時間、健康面など、学生がいくつものハードルを越えなければならず、リスクが大きい。法政大学のプログラムは、学部4年間では機械工学を履修しながら、まず家用ライセンスの取得を目指す。その過程において自他共にプロパイロットへの可能性を見極めることができ、進路を無理なく選択することが可能となる。そしてプロパイロットを目指す学生は、将来設置予定の大学院航空操縦学専攻（仮称）に進学し、2年間で事業用ライセンス取得を目指す。もちろん、家用ライセンスを取得した上で、機械工学の知識を習得したエンジニアとして航空業界や製造業に就職することも可能である。また、報道や消防など、各方面でニーズの多いヘリコプターパイロットを目指すこともできる。「飛べるエンジニア」、「技術のわかるプロパイロット」、「航空の素養を活かしたキャリア設計」といった、多様かつ堅実な進路選択が可能である（付図参照）。

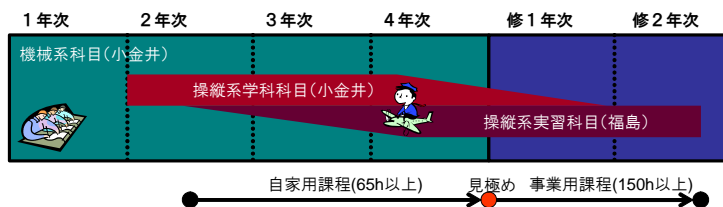
### ●日本の空でパイロットを育てる

プロのパイロット、とりわけエアラインのパイロットになるためには、日本では主に2つの方法がある。1つは、一般の大学を卒業後、日本航空や全日空といった大手航空会社に入社し、社員としてパイロット教育を受ける「自社養成」という方法であり、もう1つは、独立行政法人航空大学校に進学する方法である。どちらも競争倍率が高く、多くの学生が均等にチャレンジできる環境とは言えない。一方、米国では200以上の大学や短大がパイロット養成コースを設け、大学教育の中でパイロットの素養を身に付け、自らがキャリアアップしていく方法が常識である。法政大学は、大学教育という社会的責任を

果たしつつパイロット需要に応えるには、単に海外に任せるのではなく、日本で米国のようなプログラムを実現する必要があると考え、あえて国内での本格的なパイロット養成にチャレンジする。法政大学は、教育プログラムの構築に関し、日本航空（JAL）および国土交通省航空局・航空大学校などの協力支援を受けており、また、安全運航で実績のあるフライトスクール、実習エリア（福島空港）とも強い協力体制を築いている。さらに、欧米のパイロット養成コースを持つ大学とのコラボレーションにより、海外留学による実習訓練も計画している。

- ・ 名 称： 法政大学理工学部機械工学科 航空操縦学専修
- ・ 開設年度： 2008年4月
- ・ 募集定員： 30名
- ・ 設置場所： 法政大学小金井キャンパス（東京都小金井市）および福島空港（福島県石川郡玉川村）
- ・ 学 費： 約1150万円（4年間の学費＋操縦実習費を含む）
- ・ 出願資格： 健康調査、英語資格（TOEIC 450点以上など）
- ・ 入学試験： 1次選抜（センター試験）および2次選抜（健康調査、面接試験、操縦適性検査）
- ・ 取得可能資格：
  - ・ 学部： 自家用操縦士技能証明（飛行機陸上単発またはヘリコプター）
  - ・ 大学院（構想中）： 事業用操縦士技能証明（飛行機陸上単発・多発・計器飛行証明またはヘリコプター）

●特徴： 学部4年間＋大学院2年間の教育プログラム



**機械工学科 航空操縦学専修  
コンセプト**

- パイロットとしてだけでなく、機械＋航空の素養を持った「飛べるエンジニア」の育成
- 自家用操縦士免許の取得を目指す
- モノづくりのモチベーションとして航空機
- 学費やリスクに配慮
- 研究活動への応用
- コース定員：30名

**大学院 航空操縦学専攻  
コンセプト**（設置構想中）

- 高い技術を持つ高度職業人の育成
- 事業用操縦士免許の取得を目指す
- プロパイロット、および将来の航空産業を支える人材の育成
- コース定員：30名

6年間の教育プログラムにより、高度な教養とスキルを併せ持った適応力ある人材を育成する。